



### 農業委員会会長・事務局長会議を開催

#### 県農業会議

県農業会議は10月1日、神戸市で農業委員会会長・事務局長会議を開き、県及び兵庫みどり公社関係職員も含め、92人が出席した。

農地中間管理事業法等の一部改正等を受けた農業委員会の活動活性化と適正な運営などについて、県から

県農業会議は、都市農地の貸借の円滑化に関する法律の適用状況について三大都市圏特定市の7農業委員会を対象に調査した。施行から1年後となる本年9月末時点で12件の実績があった。

内訳は、「自ら耕作の事業の用に供するため」が6件、「特定都市農地貸付（市

発行所  
一般社団法人  
兵庫県農業会議  
神戸市中央区下山手通4丁目15-3  
兵庫県農業共済会館内

- 主な内容
- ◇ファースト・ステップ農業の仕事ガイドランス…2
  - ◇女性農業者グループ部活動紹介④  
「淡路女性会」…2
  - ◇農地情報公開システム操作研修会…3

農地中間管理事業の事務改正の概要と「いきいき農地バンク方式」について説明があった。

このほか、県農業委員会職員協議会の令和2年度会費賦課額について前年度同額で了承された。

### 作業機付きトラクターの公道走行が可能に

国交省と農水省、(一社)日本農業機械工業会はこのたび、農作業機付き農耕トラクターの公道走行に関するガイドブックを公表した。

今年3月に、国土交通省が農耕トラクターに関する道路運送車両法の運用を見直し、保安基準の緩和を受けたもの。

この保安基準の認定条件に基づく制限事項に対応するため、

市町名	自らの耕作の事業	特定都市農地貸付(市民農園)
尼崎市	2件	2件
西宮市		1件
伊丹市	2件	2件
宝塚市	1件	1件
川西市	1件	
合計	6件	6件

あわせて、農耕トラクターの使用者に公道走行にあたって確認を求めているのは、①灯火器類の設置、②作業機を含めた車両幅、③作業機を装着した時の安定性(傾斜角度)の変化と運行速度、④必要な免許の4点としている。

農耕トラクターに牽引される被けん引型の作業機については、同法の運用の見直しが検討されている。

### 農業委員会職員全国研究大会 本県から12人参加

全国農業会議所と全国農業委員会職員協議会は10月16日、大阪市で農業委員会職員全国研究大会を開催し、本県から農業委員会と農業会議職員12人が参加した。

全国農業会議所の稲垣事務局長による農業委員会組織をめぐる情勢報告のあと、京都府立大学の桂教授から「人・農地プランの实质化と農業委員会の役割」について講演があった。

農業委員・農地利用最適化推進委員には、集落座談会などで地元の調整とともに、話し合いを活性化する役割が求められており、「地域の農業の未来を考える集落座談会と地域との関わり方」と題して、(一社)会議ファシリテーター協会代表釘山健一氏から、合意形成方法や会議における進行役のスキルを高める手法について講演があった。

また、各地で実施されている「人・農地プラン」の实质化に向けた活動の事例報告が行われた。

# 農地情報公開システム操作研修会を開催

## 県農業会議

県農業会議は10月11日、神戸市で農地情報公開システム操作研修会を開催し、農業委員会事務局職員、57人が参加した。

同システムの地図機能は、集落の話し合いに利用できるように土地の所有者の年齢、後継者の有無等により色分け区分ができ、目視でその地域の状況が判断できる。一方で、台帳機能の弱さや市町の費用負担の問題などから、住基・固定等の基幹システムとの突合、再

アップロード、地図（地番図）更新などがスムーズにできていない状況だ。

研修会では、全国農業会議所農地・組織対策部長の山村勝廣氏から、農業委員

## JAあわじ島で農業者年金制度説明会

### 農委会の呼びかけで実現

10月15日、あわじ島農業協同組合本所で農業者年金の制度説明会が開かれた。

管内各支所の営農指導員を対象にした研修会で、南あ

わじ市農業委員会の呼びかけで実現した。

農業者年金は公的年金としての節税効果が魅力の一つ。納めた保険料の全額が

会が公開するべき農地等の情報の公開が法で定められており、情報の活用・促進に向けて、計画的な対応が必要であると説明があった。続いて、同会議所の今井貴也氏の指導により、パソコンを使って同システムの操作研修をした。

社会保険料控除となることから、同市農業委員会の竹田孝司会長が、青色申告や営農の指導で日常的に農業者と接する営農指導員に、農業者年金を農業経営や老後の所得確保の手法の一つとして普及推進してもらおうと企画した。

研修会には営農指導員ら37人が参加し、県農業会議が制度の概要について説明した。

で「農業委員会地区別交流研修会（但馬地区）」を開き、農業委員・農地利用最適化推進委員ら41人が参加した。県農業会議から農業委員会をめぐる情勢について報告したほか、参加者が6グループにわかれ、少人数でのグループ討議を実施。合同会社人・まち・住まい研究所代表の浅見雅之氏から話し合いの進め方について指導を受けた。

当日は、農業委員会でも、農業委員と農地利用最適化推進委員を対象に2回に分けて農業者年金の研修を実施した。

浅見氏は、地域での話し合いは、みんなで決めることが大事で、みんなで決めるということとは、できるだけ多くの納得を引き出すことが大事と説明。「耕作放棄地対策のために農地中間管理事業をどう活用できるか」をテーマに、参加者はそれぞれの意見をふせんに書き出し、その後グループで意見を集約していくなどして、話し合いを活性化する技術を学んだ。

## こんにちは!!農地バンクです

### 農地バンクの手続きが簡素化されます!

「農地バンクの手続きは書類が多いうえに、時間がかかる」：そんな意見を反映し、農地バンク法が改正され、手続きの簡素化などが行われます。

主な改正点は以下のとおりです。

①これまで2週間を要していた県の縦覧が廃止され、手続きの期間が短縮される

併せて、③農地利用集積円滑化事業との統合一体化が行われ、農地バンク事業の実施区域が「農業振興地域内」から「市街化区域以外」に拡大されます。

②これまでは出し手とバンク、バンクと受け手のふたつの手続きが必要でしたが、出し手と受け手のマッチングが整っている場合は、一括した手続きで農地の借入れ・転貸が可能になります。

（一部市町では、経過措置として従来方式を継続）

まず、今年11月からは、①これまで2週間を要していた県の縦覧が廃止され、手続きの期間が短縮される

（一部市町では、経過措置として従来方式を継続）



積円滑化事業との統合一体化が行われ、農地バンク事業の実施区域が「農業振興地域内」から「市街化区域以外」に拡大されます。農地バンクについてお問い合わせは、兵庫みどり公社 ☎078・361・8114まで。

## 但馬地区農業委員会交流研修会を開催

### 県農業会議

県農業会議は10月23日、養父市の県立但馬長寿の郷

で「農業委員会地区別交流研修会（但馬地区）」を開き、農業委員・農地利用最適化推進委員ら41人が参加した。県農業会議から農業委員会をめぐる情勢について報告したほか、参加者が6グループにわかれ、少人数でのグループ討議を実施。合同会社人・まち・住まい研究所代表の浅見雅之氏から話し合いの進め方について指導を受けた。